

授業科目(ナンバリング)	観光政策論(CA213)			担当教員	池永 正人		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択 (コース必修)
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p style="text-align: center;"><b>テーマ：地域の観光政策としての着地型観光</b></p> <p>この授業では、日本の観光政策と、地域の自然・産業・歴史・文化などを地域主導で観光活用した着地型観光の理論および実践について理解する。</p>							②
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本の観光政策と着地型観光に関する用語や事象を理解できる。				定期試験	10%	
情報収集、分析力	着地型旅行商品に必要な観光資源の特性と便益を指摘できる。				定期試験	35%	
コミュニケーション力	授業内容についての意見や感想、質問を述べることができる。				カードのコメント	10%	
協働・課題解決力	着地型旅行商品になりうる地域の自然や産業、歴史や文化に関心を抱き、毎回の授業内容の確認問題に取り組むことができる。				確認問題	30%	
多様性理解力	地域性を考慮した観光資源の多様な活用法を提案できる。				定期試験	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験と授業態度・確認問題に取り組みを総合して評価する。授業態度の一つの要素であるカードのコメントは、毎回授業の初めに重要な質問・意見に対して回答する。							
授業の概要							
<p>着地型観光の事例については、まち歩き、温泉、イルカ、砂、山岳、災害復興、雪、河川水路を活用した観光事業の取り組みを解説する。講義内容が十分に理解できるように、スライド・DVDなど視聴覚教材を用いて臨場感のある講義を行う。また、カードのコメント（質問・意見）の回答は、ポートフォリオに掲載するとともに、次回の授業のはじめに解説する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：なし。授業内容の要点を整理したプリントを配布する。</p> <p>参考書：尾家建生・金井萬造 編著『これでわかる！ 着地型観光—地域が主役のツーリズム—』, 学芸出版社, 2009年（初版第2刷）</p> <p>指定図書：大社充『体験交流型ツーリズムの手法—地域資源を活かす着地型観光—』, 学芸出版社, 2009年（初版第2刷）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
講義では内容をわかりやすく解説するが、地域資源とその観光活用についての問題意識をもって学んでほしい。また、長期休暇や休日には観光地を訪れ、見聞を広めてほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	I. 着地型観光の概念 ①日本の観光立国宣言	観光立国推進基本計画に見る日本の観光政策について解説する。	予習：シラバスの読み 復習：観光立国推進基本計画
2	②地域資源の観光活用	地域の自然や住民の営みで築かれた産業・歴史・文化などの地域資源の観光活用について説明する。	予習：地域概念 復習：身近な観光資源
3	③着地型観光とは何か	地域住民が主体となって旅行商品の開発に取り組む着地型観光と、素材としての観光資源について解説する。	予習：着地型観光の意味 復習：着地型観光の内容
4	④旅行業法の規制緩和と着地型観光の推進	旅行業法の規制緩和の内容と着地型観光の推進について、具体例を示し解説する。	予習：旅行業法の条文 復習：規制緩和の内容
5	⑤着地型観光の事業主体	観光協会、NPO法人、協議会、旅行会社など多様な事業主体による着地型観光事業について講義する。	予習：観光協会の業務 復習：着地型観光事業
6	⑥着地型旅行商品の造成	着地型旅行商品の開発の着眼点、流通・販売および市場開発について具体例を提示し解説する。	予習：旅行商品の種類 復習：着地型旅行商品
7	II. 着地型観光の事例 ①まち歩き 「長崎さるく」	市街地を歩きながら長崎の歴史や文化を理解するまち歩き観光について解説する。	予習：長崎市の観光名所 復習：長崎さるくの内容
8	②雲仙温泉の「地獄めぐり」	「地獄」と呼ばれる温泉地の噴気地帯を、夜間に懐中電灯で観光客を案内する地獄めぐりについて説明する。	予習：雲仙温泉の概要 復習：地獄ナイトツアー
9	③早崎瀬戸の「イルカウォッチング」	島原半島と天草下島の早崎瀬戸に生息するイルカの遊泳を船上から見物する観光について解説する。	予習：イルカの生態 復習：イルカウォッチングの現状
10	④鳥取砂丘の「散策と砂像めぐり」	東西 16km、南北 2km、起伏は日本最大の 47m にもおよぶ鳥取砂丘の散策と砂像について説明する。	予習：鳥取砂丘 復習：砂丘の観光と保全
11	⑤北アルプスの「雪の大谷ウォーク」	立山黒部アルペンルートの観光道路の除雪による積雪 20m の雪の壁を見物する観光について説明する。	予習：立山黒部アルペンルート 復習：雪の大谷ウォーク
12	⑥三陸復興国立公園の「グリーン復興プロジェクト」	東日本大震災からの復興の一環として実施されている復興エコツーリズム等の推進について説明する。	予習：東日本大震災 復習：復興エコツーリズム
13	⑦北海道ニセコ地域の「ウィンターアクティビティー」	北海道のスキーリゾートである倶知安町とニセコ町の多様なウィンタースポーツについて解説する。	予習：ニセコ地域の範囲 復習：ウィンターアクティビティー
14	⑧水都大阪の「水上クルーズ美観めぐり」	水上バスアクアライナーで眺める大阪市街地について解説する。	予習：大阪市の観光名所 復習：水上クルーズ
15	III. まとめ	地域の観光政策の現状と課題について、講義内容から考察する。	予習：着地型観光の事例 復習：確認問題の内容
16	定期試験	専門用語と記述の問題を解答する。	授業内容のプリントと確認問題を用いて復習